

「大空の教育」の改善(Check & Action)

1. 夢を育み人間力を育てる学校づくり

(○・・・できている △・・・個人の課題 ☆・・・全体の課題 ◎・・・具体的な手立て □・・・意見)

Check (課題)	Action (改善)
<p>△子どもが「あこがれ」を持つ対象があまりつukれていない。</p> <p>☆暴言を吐く子どもが多くまわりのみている子どもは安心してくかっただと思われ</p> <p>る。</p> <p>☆「すべての子どもが安心できる居場所づくり」これが意味することを1年を通して確認し合っていく必要がある。</p> <p>☆サポーターや地域の人とともにつくるという感覚が子どもに浸透していない。(言葉だけ)</p> <p>△☆「たった一つの約束」を守ることについて、年度途中、話をし続けたり、詰めきれなかつたりすることがあった。</p> <p>☆すべての子どもが安心できる居場所をつくる。</p> <p>△「あこがれ」を持つ対象をもっと増やしていきたい。</p> <p>☆子どもが安心できる場所はどこでもいいか。</p> <p>△☆すべての子どもが安心できる居場所</p>	<p>□身近な人に目を向けるように声をかける。何か取り組むときにリーダーやそのものごとが得意な人を目標にできるようにする。</p> <p>□暴言を吐いたとき第1回目の一の時に徹底的に指導した方がよい。どんな家庭やいろんな事情があろうとも許すべきではないと思う。</p> <p>私の立場からは入り込んでも子どもとのつながりがなく指導できなかった。(とても歯がゆい)もっと強く叱れる環境がほしい。</p> <p>□昨年の改善でふれあい科(特にコンサート)の時間が多く取られ授業時数確保できているか?とあったが確保できている中でのコンサートの学習であった。</p> <p>□ただ、自分がやりたいことだけを自分らしくできたらいいかと言えばそうではない。その時その時、どう向き合うことがこれにつながるのかたくさん大人のこれからも考えていく。</p> <p>□普段の学習でサポーターや地域の人との触れ合う機会を増やす努力を続けていきたい。近くにサポーターがいたら巻き込む。</p> <p>□子どもたちの安心のためには、「たった一つの約束」を徹底する必要があると思いました。</p> <p>大人がブレてしまうと子どもたちはどうしていいかわからなくなると思うのでブレずに話をしていき必要がある。</p> <p>◎数年前に議員のゲストをストップしたことがあるが、それ以降も学生や一般のゲストが増える一方である。もちろんともにつくってくださる方もいるが、それはどうかとを感じるような対応の方も残念ながら少なからずいた。(先日の3人だけでなく細かいことを言うとかたくさんいる。)学習中の出入りも気になることがありせめて1日の人数制限などする時期であると思う。個人的には「HPを見た」ということが本当に本校の理念に共感して入校しているという証にはならないと思うので防犯面からもゲストは学生のみ限定してもいいと思っている。ゲストの在り方を考え直すには今がちょうどいい時期だと思う。</p> <p>◎異学年交流をどんどん行う。各学年がどこで何年生とふれあえそうかという視点で単元の見通しを持つ。</p> <p>出前授業を積極的に行う。地域の方や専門家、企業も</p> <p>□教職員一人一人考えが違う。本当は「教室に戻ったほうがいいよ」というのがつらくなってきた。大人の目の届く場所においてほしいけど学校の中なら目の届く場所でもいいのでは。支援の在り方が大きく変わる話題なのであまり言ってなかった(言わなかった。)</p> <p>□その時の自分ができる最大限のことにチャレンジすることがOKと子ども・サ</p>

をつくる。

☆すべての子どもが安心できる居場所になっていない。教室をすぐに飛び出してしばらくもどろろとしない子どもが増えていく。原因を考えたい。

△大空の「たった一つの約束」と「4つの力」へのこだわりが薄かった。今年度を通じて1学期では「やり直し」をせず教室内で解決することが多かった。また「4つの力」を使った学びが少なかった。

△支援を必要とする子どもの数が多いと感じる。今までのカリキュラムでは時間的にも余裕がない。

○子どもたちがあこがれをもつことができる。

☆コンサートの在り方については形だけにならないようにする

△☆3学期に様々な行事が重なりすぎて柔軟なカリキュラムで進めることが難しく感じるがあった。

○△すべての子どもが安心できる居場所が教室以外にもたくさんある(図書室、校長室など)ことをよい点、よくない点を考える日々でした。

☆コンサートを土曜授業で行うことによって行動のキャパがこえていることがあるのではとサポーターからあり、3回とも土曜日にあることで子どもに負担がかかっているのではないか。

☆「すべての子どもが安心できる居場所をつくる」のすべての子どもとなると現実的には難しい。

☆「あこがれ」を持つ対象を多くつくる。低学年は本物への出会いが少ないように感じる。

☆オープン授業で子どもが興味を持っておりことを取り上げていきたい。

☆「しんどい子に寄り添う」というのはとても大切と思うが「しんどい」というのは質がある。本人の努力だけでは何ともならないことについてはその通りだと思う。しか

ポーター・みんなに発信していく

教室を飛び出し戻ろうとしない理由は何なのかをさぐり、そのことについての根本的な解決を目指すべきだと思う。保護者にも相談して学習面、家庭での生活面、友だちの関係によるものを見極め、それに合う指導を考えたい。新しく会議するなら何か他の会議を減らすべきである。

来年度では「たった一つの約束」をやぶった場合、教室内だけで解決させず、「やり直し」へ行くようにうながすようにする。「4つの力」をできるだけ授業内で多く取り入れるようにし、大空小独自の学びを子どもたちとつくっていきけるようにする。

行事やカリキュラムの取舍選択を行う必要がある。

大切にしたいことは何かを常に共有してみんなで考えていく。

仕事内容(行事や取組)の精選

削除することができない行事や取組については内容を見直す必要がある。

個人としては発達障がいなどについてもっと勉強する。

授業中、教室から逃げでることへの対応(子どもによって違いはあるが)で自分の考えを持ちたい。

◎年3回のコンサートのうち1回は「学校行くDAY」などの平日にするのはどうか。

いろいろな背景で安心感の得にくい子どもには個別にまずしっかりと大人が関わり、良さ、得意なところ、頑張りを発見する。それを周りに広め伝え、徐々に子どもとのつながりの輪を広げていく。

◎昔遊びの学習で地域に人を招いて実際に遊び方を見せてもらう。昔のことを語ってもらう。

◎子どものBDメッセージの内容などからこんな人を呼ぼう！みたいなことができた(ケーキ屋さんとか・・・)

学校全体的なムードとして厳しい対応をしにくいところがある。一人がそうしようと思っても周りがそうでなければ効果はなく、その一人がしんどい思いをすることになる。甘えに対してはどう対応するのか全体で共有するのがよいと思う。「本当にできないのか」が基準というところである。

<p>し、本人が甘えて「いや」「できない」「無理」と訴えて逃げているところも多くみられる。</p> <p>△一人一人が存在感と自己実現の喜びを味わえる教育環境を整備することが難しい</p> <p>☆子どもが憧れをもつ対象を多くつくる。</p> <p>☆心が動く教育実践にこだわる。コンサートをつくる。子どもに実態に応じる。</p> <p>☆すべての子どもが安心できる居場所</p> <p>☆中・高学年はオープン授業でゲストティーチャーを招いて学習する機会が多いが低学年はあまりない。</p> <p>○すべての子どもが学校でも地域でも安心できる居場所をつくれるようにする。</p>	<p><input type="checkbox"/> 異学年交流の中で上の学年が下の学年に伝える機会をもっとつくる。</p> <p><input type="checkbox"/> コンサートが好き、音楽が好きな子どもたちもいますが、支援が必要な子どもたちが増えてきている中、コンサートに対して思い気持ちを抱えている子どもたちもいて私自身これがベストと言えるものは具体的にはいいないです。コンサートの時間や回数などそれぞれ一つ一つのコンサートに意味はあると思うがコンサートのやり方を考えていくことが必要かなと思う。</p> <p><input type="checkbox"/> たくさん子ども(今年度は18名)が転入してきてその子たちが様々ですすべての子の居場所を確保するのが難しくなっているので居場所(職員室、図書室、ふれあいスペース、校長室など)を確保すると同時にどこに誰がいるのかをわかるようにしておかなければならないと思う。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・高学年のオープン講座の時、低学年でも理解できる内容の場合は一緒に参加できるようにしたい。継続的に来ている講師の方に低学年用の授業をしてもらおう。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校だけでなく地域にも安心できる居場所があればと思う。(地域の風と連携して)</p>
---	--

2. 教職員のチーム力を活かす学校づくり

(○・・・できている △・・・個人の課題 ☆・・・全体の課題 ◎・・・具体的な手立て □・・・意見)

Check (課題)	Action (改善)
<p>☆明文化されていないが学校として取り組まれているものがある。たまたま耳に入ってからわかった、人に指摘されて存在を知ったということである。例えば教室のコの字型、前には何も張らない、コン活の各学年の取り組みや担当者、学校でのルールなど。確認したい時、いちいち聞くのは時間が取れないこともあり知らない人(特に転任者)には不親切だと思う。</p> <p>また職会にとおっていないのにきまっていたということもある。その1年当該の人だけが関係あることならよいが全体や年をまたいで影響があるものはなぜ職会にかけないのかわからない。</p> <p>△新たな仕事へのチャレンジができていない。</p> <p>△削除する仕事を精選できていない。</p> <p>☆LCB研の融合</p> <p>☆職朝で子どもの情報を伝えてはいるが、職朝に出られない教職員はメモだけもらってもわからないことがある。</p> <p>☆教職員の集合が遅い</p> <p>○LCB研の融合をさらに進めていく</p> <p>△新たな仕事へのチャレンジと精選</p> <p>△新たな仕事へのチャレンジとともに削除する仕事の大胆な精選を行う。</p> <p>☆LCB研のあり方は今のままでいいと思うが審議すべきことや職会で出た提案に</p>	<p>□学校での校務や取組については全体で共有し、各自が理解したうえで進める必要があると思う。職会に案件を出すことが必要。そうすれば誰もが話し合いに参加でき疑問を解決し問題は改善していけると思う。</p> <p>□ここは個人的なところだが、仕事の精選を大胆に行うことを中心に考えるのはどうか。</p> <p>□削除できる仕事を選ぶことが難しい。会議、研修、行事どこから削除することができるのか見通しをもたなければ子どもの理解も追いつけない。余裕のない指導は最善の指導になるとは言えない。</p> <p>◎低中高それぞれのチームで授業をシャッフル(大人がチェンジ)する機会を増やす。</p> <p>◎もう一度職朝の内容の精選、できるだけ教職員が多く参加できる場(終礼にする)1つの休み時間をすべて支援チームに任せて10分ミーティングなど今までしてきたからこれからも同じように悪しき習慣を続けるよりはいいかも</p> <p>□子どもの対応かもしれないが対応するなら早めに連絡、ヘルプを頼む。そして時刻を守れるように本人のマネジメントの意識を改める。</p> <p>□時刻を守っているほうが損をしている。会議終わりが遅くなっても「ごめんなさい」ですまされる。</p> <p>□変えていかないとやる人、やらない人が分かれる。</p> <p>□LCB研は兼任で話し合いに入っている人が多く融合で来ていると思う。B研との融合を進めるために道德のテーマ決めなどを一緒にやっていく。</p> <p>◎「総研」への参加を継続と各教科領域の発表資料などを共有。今までにこだわりすぎず、今いる子どもたちにとって必要なことを優先する。</p> <p>□職朝や職会、その他学年などから全員で審議するような話が出てきた時にある程度、案を固めるような場をつくる。職朝や職会の中で決めるのは時間</p>

ついでに決定方法が今のままでは弱いと思う。他校で言う企画会のようなものがどこかで必要でないでしょうか。以前はG5みたいな話し合いもありました。G5とはB研と支援リーダーを足したようなメンバーでした。今の決め方は民主的ではあるが深く審議できていると思えない。

☆LCBの融合をすることが少なかった。OFPの機会が少なかった。

△時間を大切に時刻を守ることが難しかった。クラスでも一時期大人が守れていなかったことでルーズになっていた。

△LCB研の融合された形がどのようなことを指すのかあまりイメージでいていない。

☆「時間を守れていない」というのがここ数年出続けている気がする。

○子どもの共有は徹底してできていたし、継続・教職員同士の自浄作用も高まっていた。

○LCB研の融合は増えていないがそれぞれがしっかりと活動できていた。

☆3年の問題についてどんなチームをつくらればよいかわからなかった。

△情報共有があまりできていない。

△自分にできることは何があるかを考え、実行することが少なかった。

☆LCB研の融合まではできていない。

☆職朝の精選

☆新たなチャレンジへの取り組みはよいが削除できる仕事の話合いも必要

△L研活動してる？

○MTがなくても職員室でみんながいろん

の都合もあり少し早計などときがある。

OFPの機会を多くとることでC研、B研から教えていただくことができる。具体的に融合できる場が必要。

なかなか時刻・時間を守れなかった。全体的にはルーズな空気も感じることがあるので大人が見本とならなければならない。

L研で話し合う。

子どもの対応で遅れることは大いにあると思う。それを伝えるということはするべき

7月のOFPで「未来組」についてテーマはでたが十分に話し合いはできなかった。問題が大きいときはすぐに具体的に話し合う場を設定すべき。どのように指導するか方針を決めるべき。

1学期の初めに相談に手を打つべき

小さなことでも即担当に報告し、ともに問題解決に取り組む。

1年担当で5時間目に学習を終え6時間目の学習への入り込みがほとんどできずにいた。そのため来年度は授業研以外の場でも自分の時間で他クラスにいける時は行くように心がける。そこで「自分にできること」は何かを入り込みの中で見つけ、考え、行動していけるようになりたい。

LCBに分けるのではなくL+C+Bの組み合わせになるようなチームをつくる。

◎職朝の終了時間を決める。

仕事の精選をすべき(減らせる仕事の話合いが必要)

若手が多いからこそ何か話をする機会があれば(もしかしたら職員室などで十分な話ができているのかもしれない)

<p>な話をしてコミュニケーションを取りチーム力を高めている。</p> <p>☆職朝の時間が少し長い時があった。その間教室に大人がいない時が多々あった。</p> <p>△在籍年数の長い教職員がこの先、1、2年で異動になる。</p> <p>○教職員のチームワークの良さを今後もキープする。</p> <p>△電話の対応、言葉づかいに今一つ自信がない。</p> <p>△OFPについて</p> <p>☆職朝の精選</p> <p>☆削除や精選を行おうと考え、提案は行おうが、何かを大胆に変えていく方法にはいかない。</p> <p>☆LCB研の融合を活発に</p> <p>☆LCB研の融合</p>	<p><input type="checkbox"/> 職朝内容の精選(特に月曜日と水曜日)</p> <p><input type="checkbox"/> 自主研修で電話対応の言葉遣いを学ぶ。</p> <p><input type="checkbox"/> 忙しくて集まれなかったことが多かったのでOFPを来年度はもう少ししたい。(無理のない程度)</p> <p><input type="checkbox"/> 支援と教科を分け合うというのも1つの手かと思った。単元でなく教科を担当することでお互いの動きや授業力を高められると思う。</p> <p><input type="checkbox"/> 時間を変更したことで改善できたところもありました。クラスによっては違うのもあると思いますが、子どもたち自身が朝の過ごし方を自分たちで少しでも作れるような手立てや声掛けが必要だと思います。</p> <p><input type="checkbox"/> 早くに提案し、変更を試みてもあまり変わっていかない。食会という場で皆さんの本心が出ているのかわからない。もう少し行事を見直すことをどこかで考えられないか。各チームで話し合うのがいいのか他にそのような場を設ける方がいいのか。</p> <p><input type="checkbox"/> それぞれのチームで話し合ったことを共有する場をつくる。話し合ったことをふせんなどに各自が張っておきいつでも見える状態にする。</p> <p><input type="checkbox"/> 融合の部分を詳しく書くとわかりやすくなると思う(職員室での共有を通して)</p>
---	--

3. 楽しく学びがいのある授業を実践する学校づくり

(○・・・できている △・・・個人の課題 ☆・・・全体の課題 ◎・・・具体的な手立て □・・・意見)

Check (課題)	Action (改善)
<p>☆基礎・基本の定着</p> <p>☆計算力の定着が時間がなく難しくなっている。</p> <p>△実践してよいと思ったことを授業研でもっと共有する。</p> <p>△子ども同士が学び合う形は多く取っているが話し合いで考えを伝える子どもに隔たりがあり一部の子どものとどまっている。</p> <p>△「子どもの主体的な・・・」を意識して授業をつくる余裕がなかったので来年度は頑張りたい。</p> <p>☆計算力の定着</p> <p>☆計算タイムなど基礎基本の時間がとりにくい。</p> <p>☆計算力の定着ができていない。</p> <p>△授業内で子どもの主体的な考えや活動を出せる場をなかなかつくるできなかった。</p> <p>☆単語で話すことが多い</p> <p>☆基礎基本を確実に定着させていない。</p> <p>☆計算力の定着</p> <p>△発言するより聞くことができなかった。</p> <p>○子どもが主体的に学ぶ授業づくりにこだわり続けていく。</p> <p>☆基礎・基本の定着</p> <p>○「たった一つの約束」の大人の徹底</p>	<p>□高学年になるにつれて子どもたちの中で基礎的な学力の差が大きく見えるところがあるなど思う。定着できるように別プリントをすることもありますが、もっと確実にできる定着できる手立てがないかなと思っている。具体的にはできていません。</p> <p>□授業研のチーム、授業をしてない日でも近況報告みたいな感じで集まれたらいい。</p> <p>□友だちの意見を聞いた後、大人がすぐ対応して評価するのではなく、子どもに一回ふる。一回ふるときにどう思う？とざっくり聞く前にまずは何と言った？と確認して自分の言葉で聞いたことを説明させるということを何度も繰り返し聞くことを定着させる。</p> <p>□朝スタの時間のより一層の充実(計算プリント等の徹底)</p> <p>□なるべく読み聞かせがない朝の時間にする。(職朝後も早く上がる)</p> <p>□個別に学習するか別課題が必要。それを行うことが難しければ他に方法があるか考えていく必要がある。</p> <p>□今年度は「～してね」や「これは～だよ」と子どもたちが考える場が少なく教師側が子どもたちを誘導したような形の授業になっていた。来年度は誘導的にならないように子どもが考えをもったり発表したりする場を日ごろからつくるように心がける。自分の指導だけでは成り立たないところは、先輩教職員の方々の接し方を見て学んで実践してみようと思う。</p> <p>□誰が何なのか、しっかりと文として話すように意識する。</p> <p>□苦手な子をできるだけ多くひろい、できる子とつなげる。また、1対1の時間をつくり、つまずきをできるだけ少なくする。</p> <p>◎火曜日、金曜日の読み聞かせ以外は計算にする。クラスによってばらばらがあると思う</p> <p>□人を大切にして友だちの意見を聞く指導をどうしたらよいか(いい児らの指導方法を身に付けようとしたがなかなかできなかった。)</p> <p>□授業研を通して自分が得たものはすぐ実践してみる。</p> <p>□職朝の時間に計算プリントをやる回数を増やした。わからないところは友だちに聞くなど子どもたちだけでも学べるようにした。</p>

<p>☆個々の特性を学校全体に活かす授業を工夫し合うことがほとんどなかった。ように感じる。若手ばかりで授業の工夫のところが深まらないと思う。</p> <p>△計算タイムの確保が少なくなっていることで基礎・基本の定着があまりできていない。(計算力の低下)</p> <p>△基礎・基本の定着</p> <p>○計算力の定着は達成した。次の目標</p> <p>☆基礎・基本の中でも読んだり、聞いたりして理解する力が低いと思う。そして子どもによって差があり、学習の振興を難しくしている。</p> <p>☆計算力の定着の時間がなかなか取れていない。</p> <p>☆道徳が教科化されて教科書を使って学習し評価もされるようになった。全校道徳の良し悪しは関係なく国として取り組んでいる道徳の進め方と大きく違うことをしている。校務に携わる者としてはよくないと思う。また、我々は市の職員なので転勤もあります。一般的な道徳を全くしないまま転勤するのはとても不安である。転勤してくる人にとっても戸惑いがあると思う。</p> <p>△子どもたちが「楽しい」と思える授業をもっと増やしたい。</p> <p>△基礎・基本を確実に定着する</p>	<p>□授業研の進化が必要だと思う。マンネリ化しているような気がする。「4つの力を高める」ということが薄れているのでそこを深めることを大切にした授業研の振り返りを行う。</p> <p>□イングリッシュに関係もあるので少なくなることは仕方ないことだと思うが、どこかの時間で確保していきたい。タイミングについては分かりません。</p> <p>◎サマスタに呼ぶ子どもをもう少し増やす。(各学年4人とか)</p> <p>◎放課後に残って宿題をすることを認める。(算数だけ)</p> <p>□問題を読めるようにする。←高いので。計算にこだわらない。いろんな問題にチャレンジ</p> <p>◎短い文を読む。読んでわかったことをクイズ形式などをつかって表現するなど読む力を育てる授業を多く取り入れてはどうか。同じように聞き取ったことを表現するなどのクイズ形式でもいいと思う。自分い情報を取り入れることを苦手としている子どもが多いように思う。</p> <p>◎朝スタ(計算)の復活</p> <p>◎全校道徳の時間を削減し教科書を使ったクラスの道徳をする。一気にというのは難しいのであれば徐々に移行する。</p> <p>□低・中・高の2学年のつながりで動くことが多いがそれをこえたつながりがなかなか作る機会がない。1年に1度、授業研のペア学年で一緒に学習することがあり、子どもにとってはすごく印象に残る学習になっているのでもう少し頻繁に増やしたい。</p> <p>□計算力とともに漢字の読み書きや英語も学年によってプラスしてもいいのではないかと。</p>
---	--

4. 地域の風がいきかう学校づくり

(○・・・できている △・・・個人の課題 ☆・・・全体の課題 ◎・・・具体的な手立て □・・・意見)

Check (課題)	Action (改善)
<p>☆就学してくる子が校区内に住む子の5割以下というところに危機感を感じます。通常はほとんどの子が進学してきます。そこから学校の現状に疑問をもっているということがうかがえます。全国から支援の必要な子が次々と集まってきているところや取組にあると思います。</p>	<p>□国や市が進めていることは概ね取り組んでいくことが必要。全国での講演を控えていただけるよう学校として市として伝えることはできないのだろうか？教育関係者対象に教育を考える目的で行う分にはよいが一般で公開すると集まる一方です。このままでは学校としてパンクしてしまったり、大きなことが起こったりしてしまうのではないかと心配です。</p>
<p>△SEAリーダーさんの話を聞いていろいろ思うことがあるけど言って伝わらないからあきらめムードということだった。</p>	<p>□学校とSEAとの間でどんなやり取りがこれまであったかわからないので何とも言えません。ただ、心配なことではあります。</p>
<p>△学校に行くDAY・見守るDAYで地域サポーターの方が来ているという実感が得られなかった。</p>	<p>□毎月15日に関わらず、学校に立ち寄った時に気軽に教室に入って子どもたちの様子を見守っていただけるような声掛けをHPやポスターなどで積極的にする。</p>
<p>△学校に行くDAYでなかなか地域の方が学校に来られない。</p>	<p>◎年に1回土曜参観の日を設けて大々的にサポーターに来てもらう日をつくってはどうか。</p>
<p>☆大空小が大切にしている教育について理解してくれていないサポーターの割合が増えているように感じる。</p>	<p>□普段の授業、休み時間、給食、そうじなど飾りない姿をエピソードを取り入れながら知らせていく。学年便りなどで知らせていたがそれにはやはり仕事の精選という観点からいくと増えるのみになるので削除する仕事もなければ実行しにくい。</p>
<p>☆普段から来てくれているサポーターの方たちが決まってきている。</p>	<p>◎もっと学校に来やすくなるようにHPやポスターを活用。オープン講座などは手紙にして配布する。</p>
<p>☆学校に行くDAYや見守るDAYはいつも同じ人ばかりになっているように感じる。</p>	<p>◎子どもから発信できるように伝える。連絡帳に書く。</p>
<p>△名前が覚えられない</p>	<p>□4月に教職員の顔や紹介があるのなら地域・サポーターの写真があってもいいのでは。みんながつくっているのだから名前を覚えてもらうきっかけに。</p>
<p>☆サポーターの来校が減っている。</p>	<p>◎年度初めにHPがあることやアクセス方法などを知らせる。また、スクレタや学年便りのことをミンガラバで伝える。 ◎職員室前に各学年 or 各チームの掲示板(伝言板)みたいなコーナーをつくり、どんな学習をしているのか発信する。</p>
<p>☆地域といっても同じ人たちが来てくださるのもっと風通しのある学校にならないといけないと思う。</p>	<p>□HPやポスター等行っているが効果が見られない。子どもたち発信でよりたくさんの方の地域・サポーターの方に来てもらえるようにしたい。</p>
<p>☆学校に来るサポーターが少ない</p>	<p>□来てくれているサポーターの方からまわりのサポーターへ学校の話や様子を伝えてもらう。ミンガラバや手紙で伝える。</p>
<p>☆オープン授業の地域の方の参加を増やす。</p>	<p>□ちびボラで配布している手紙をもっと有効に使えないか子どもと一緒に考える。ちびボラの意味や何で始まったかなど子どもたちと話す。</p>

<p>○来てくださるサポーターが少ないともとれるが継続してきてくださる方がいることは Good</p> <p>○十分できている。</p> <p>☆地域</p> <p>△地域の人とともに授業を参画する場をつくれていない。</p> <p>△「見守るDAY」の日に学校に来る時間を見直す必要があると感じた。</p> <p>△東京大学との協定連携事業に進んで学ぼうとする姿勢を見直す。</p> <p>△インクルーシブ教育の実践に努めてはいるがやりたいこととできることの差を大きく感じる。</p> <p>○サポーター・地域の人と考えを共有する。(OZORA塾)</p> <p>△サポーター、地域の人とのチーム力が融合しきれていないように感じる場所があった。</p> <p>☆家庭訪問がしたい。親の立場としても緊張はしますが先生と早めに顔を合わせでお話できると安心だと思う。</p> <p>△東大の学生さんたちとのコラボ、学習づくり。</p> <p>△あいさつ</p> <p>☆子どもと地域の人が顔を知り名前を呼び合える関係を広げる。地域の人のことを知らない人についてとらえあいさつしない子が多い</p>	<p><input type="checkbox"/>学校であったときに多くの人とたくさん話をする。</p> <p><input type="checkbox"/>いのちを守る学習、オープン講座、オープン授業だけでなくプログラミングも地域、サポーターに声かけてみてみんなでつくる。</p> <p><input type="checkbox"/>身近なあいさつから進め、入りやすい雰囲気をつくる。</p> <p><input type="checkbox"/>「見守るDAY」のとき、早くに学校に来ることが少なかったため、来年度はチームとしての自覚を持ち、行動していこうと思う。また、巡回などを進めようとする。そして安全、安心な学校づくりに励む。</p> <p><input type="checkbox"/>校内研修で東京大学の方と話し合いをすることが多かった。その中で自分が疑問を抱いたり質問したりすることはなかったため来年度は1度でも話せるように積極的に学ぼうとする。</p> <p><input type="checkbox"/>新たなプランを考えているが思い浮かばない。</p> <p><input type="checkbox"/>学校見学の方の数を制限するかできることをやってみよう。(見るだけなら見学は断ってほしい。)</p> <p><input type="checkbox"/>普段からたくさん話をする。</p> <p><input type="checkbox"/>改善点ではないですが一部のサポーターの距離を感じるがあったので今後どのようにしたらチーム力を融合していけるのか考えていきたい。</p> <p>◎家庭訪問があること・ないことの良い点・良くない点や大空で実施していない経緯など知りたい。</p> <p><input type="checkbox"/>東大で学ぶ学生さんたちから東大で学んでいることを伝えてもらったり、一緒に学習したり何か一緒に学習をつくることを実践できたらいいなと思う。</p> <p><input type="checkbox"/>もっと挨拶を笑顔でする(自分です。)</p> <p><input type="checkbox"/>地域の人ともっと関わり合えるような方法を考える。</p> <p><input type="checkbox"/>挨拶を自分からできるようにする。</p>
--	---

2018 年度「大空の教育」プランニング4の改善

☆今年度のプランニング5の検証（成果）（Check）と改善（課題）（Action）を記入。

① 授業研究活性化プロジェクトチーム～新しい道徳への挑戦（C研）

検証（成果）	改善点（課題）
<ul style="list-style-type: none">○ 子どもに必要なテーマを毎週のC研や子どもたちが書くワークシートから考え、設定できている。○ テーマのマンネリ化を防ぎ、子どもたちが意欲的に考えたいテーマを設定することが少しずつできている。○ 道徳の後のワークシートや学期途中にする自己チェックから、子どもたちが自分なりに考えを持つことができている。○ 毎週頭の1時間目に全校道徳を行っている。（継続していく）○ 学年道徳を取り入れ、より学年に今必要なテーマについて考える機会をつくることができた。（学期に1回以上）○ それぞれのグループの担当の教職員が子どもたちの様子を見ながらサポートができたことで、話し合いの時間が充実した場面もあった。○ 継続して全校道徳をともにつくってくれるサポーターがいる。	<ul style="list-style-type: none">○ グループでの話し合いの差をどう埋めていくか。 ⇒もっと子どもの様子を積極的に共有していく。（名簿などを利用し継続して行う。）○ 地域・サポーターの方をどう巻き込んでいくか。 ⇒朝見かけた地域・サポーターの方に声をかけていく。○ グループ発表の時間が長く、考えについて議論する時間がとれていない。 ⇒グループをいくつかに分けてくじで発表するグループを決める。できた時間で考えを深める時間をつくる。必要に応じて教室でも振り返りや考えを深める時間をとっていく。

② 授業研究活性化プロジェクトチーム

～LCBの「4つの力」を高めるための授業研（F4部・各研、各チームリーダー）

検証（成果）	改善点（課題）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業を見合うことで、子どもの関わり方や学習の中での子どもの様子を知ることができた。（スタート時から継続してできている◎） ○ 指導案検討をグループで行ったことで、より教材研究が深まった。 ○ 行けるときに行くというのを徹底して無理なく行えた。その時々で対応できた。 ○ 授業以外でも意図的に子どもの様子を見るようになった。 ○ 授業が見れなくても放課後のミーティングで共有することができた。 ○ 「4つの力」にこだわることは「主体的対話的で深い学び」に確実に繋がった。 ○ ホワイトボードを確認する回数が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以前より「4つの力」にこだわっているが、さらに意識しながら子どもも大人も授業をつくっていく。 ○ グループに関係なく、他のグループの授業を見に行ったりミーティングに入ったりするのもやってみたい。 ○ 支援と担当と交代しながら授業を見に行けるようにする。 <p style="text-align: center;">♪全体的に中間での振り返りから改善できている。</p>

③ 授業研究活性化プロジェクトチーム～プログラミング学習

（F4部・各研、各チームリーダー）

検証（成果）	改善点（課題）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年・・・True True ロボットを使ったプログラミング学習ができた。 ○ 3年・・・WeDo2.0をつかったプログラミング学習ができた。 ○ 4年、5年・・・ロボホンを使ったプログラミング学習ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一部の教職員でしか実践内容を把握できていない。教職員間でももっと広めていく必要がある。 ○ タブレットやパソコン、ロボットなど様々なICT機器を使って学習に取り組めた。 ○ 教職員の中で実践できている人とそうでない人にわかれる。ICT機器を使わなくてもプログラミング的思考を高めていくための授業をもっと全体で考えていきたい。 ○ 今後も同志社女子大学、中辻さんと連携を継続していく。

④ 特色ある学校づくりスペシャル参観プロジェクトチーム（コミュニティー部）

検証（成果）	改善点（課題）
<p>○ 出会いのきっかけをつくり、地域やゲストを呼び込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP…日常的に発信することができた。 ・ポスター…月初めにその月の予定を学校の周りに貼りに行く。 <p>○ ふれあう場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野小の方たちとのコラボ…Welcome集会で大空が大切にしていることを伝えたり、担当学年や「ようこそ長野小の先生」で学習をともについたりして、楽しくふれあい学び合うことができた。 ・異学年や学年での学び合い （音楽の学習、4，5年で国語の委員会を紹介する学習、2，3年で算数の九九の学習など） <p>○ 市大とのコラボ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携の仕方は変わるが、引き続き「いのちを守る学習 SP」を進化・継続させる。 <p>○ 東大とのコラボ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作（6年生）…大空NAV Iを作るときに、Skypeを使って途中経過を東大の方に伝え、知らない人が見てもわかるNAV Iを作るためのアドバイスをもらうという学習をすることができた。 	<p>○ 見る人の視点・読みやすさを考えると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常→みじかく、読みやすく書く ・思いを伝えたいときは、しっかり書く。 <p style="text-align: center;">↓ メリハリをつけて書くことを継続していく。</p> <p>学習の雰囲気が伝わるように写真はできるだけ載せるようにする。</p> <p>○ その月にどんなことがあるのかが一目で分かるので、分かりやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを貼る効果はあるのか。 ⇒あまり差は感じられなかった。 （わかりにくい） <p style="text-align: center;">↓ ポスターを手紙にして違う学年にも発信していく。</p> <p>①手紙として配布しているものを、朝、手渡しする。（あんしん登校や見守りのボランティアの方など）</p> <p>②地域会議室や図書室に置いて、いつでも広めてもらえるようにする。（置き場は子どもとつくる。）</p> <p>③ちびボラはどんな目的でなぜするのかということを丁寧に子どもたちに伝える。（あり方について見直しが必要）</p> <p>☆今後も連携し、子どもたちにとって学びになることができるように考えていきたい。</p>

⑤ 基礎学力向上プロジェクトチーム（CC部）

検証（成果）	改善点（課題）
<p>○ 国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読む」…音読教材を工夫したり、図書の時間を確保したりした結果、読む力がついてきている。 ・「書く」…さよならメッセージを毎日活用することで、書く力を伸ばそうとすることができている。 ・「話す」…低学年は、伝わっているかどうかを意識しながら話すことができた。 中学年は、自分の考えを自分なりの言葉で、自分の力だけで話すことができた。 高学年は、自分から前向きにチャレンジすることができている。全員がコンサートの実行にチャレンジし、することができた。 ・「聞く」…低学年は、持続力がなく、声かけをしてみんなでチャレンジした結果、聞ける力がついてきている。 中学年・高学年は、一度で話を聞く力がついてきている。 	<p>⇒ 最後まで自分の考えを丁寧に書くことを意識しながらできている子もいるが、難しい子もいる。</p> <p>⇒ 低学年は、学習時間内に全員がチャレンジできない場合もあり、偏る場合もある。 中学年は、ペアや班での活動時間をとれば達成できるので、とっていく。 高学年は、原稿など、準備物があれば、話す事ができることが多 いので、対応力を伸ばしていきたい。「話す」と「語る」を区別してできるように取り組んできたが定着が難しかった。</p>
<p>○ 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「計算力」…朝学で計算のプリントに取り組んでいるが、学年・クラスではばつきあり。高学年は、隙間の時間を使って自分たちで学習しようとしている。 	<p>⇒ 計算タイムの時間の確保が難しい。やり直しの多い子とそうでない子の差が大きいので、計算プリントに取り掛かれていない。集中して取り組める子と、そうでない子の差も激しい。 見直しをしながら、確実にひとつひとつをクリアしていくことが必要。量は、個人の力に合わせて調整する。</p>

⑥ 体力アッププロジェクトチーム（健康教育部）

検証（成果）	改善点（課題）
<ul style="list-style-type: none">○ 年間を通して、学校全体で体力u pに取り組むことができた。○ ランニングステップ・ジャギーを全学年で実施することで、瞬発力や走る力、リズム感などを継続して高めることができた。○ 3種類のジャギーを必要な時期に実施することができた。教職員の研修も計画通り行えた。○ 体力アップu pタイムでは、全学年統一して短なわを持ってくることで、多くの子どもがなわとびにチャレンジしていた。また、低学年のカードの塗る部分を少し減らしたので期間中に完成させる子が増えた。 運動委員の子どもと相談して、ミニハードルを新たに増やすことができた。	<ul style="list-style-type: none">○ 体力アップu pタイムでは、<ul style="list-style-type: none">・3・5・6年が自主練と両立して取り組めるよう、カードの内容を工夫する必要がある。・大人もなるべく一緒に外へ出て、体力アップに取り組む。○ 鉄棒・室内鉄棒<ul style="list-style-type: none">・組み立て方などを共有する。また、技のコツや補助のしかたも広める。○ 運動場のボール・フープ<ul style="list-style-type: none">・使い方や片づけについてしっかり約束を伝える。気になることがあればその都度再確認する。